

平成 28 年 5 月 27 日

広島訪問 日米両首脳によるステートメント

昨年、戦後 70 年の節目に当たり、私は、米国を訪問し、米国の上下両院の合同会議において、日本の内閣総理大臣として、スピーチを行いました。

あの戦争によって、多くの米国の若者たちの夢が失われ、未来が失われました。その苛烈な歴史に、改めて思いをいたし、先の戦争で斃（たお）れた、米国の全ての人々の魂に、とこしえの哀悼を捧げました。

そして、この 70 年間、和解のために力を尽くしてくれた日米両国全ての人々に、感謝と尊敬の念を表しました。

熾烈に戦いあった敵は、70 年の時を経て、心の紐帯（ちゆうたい）を結ぶ友となり、深い信頼と友情によって結ばれる同盟国となりました。そうして生まれた日米同盟は、世界に「希望」を生み出す同盟でなければならない。私は、スピーチで、そう訴えました。

あれから 1 年。今度は、オバマ大統領が、米国のリーダーとして初めて、この被爆地・広島を訪問してくれました。

米国の大統領が、被爆の実相に触れ、「核兵器のない世界」への決意を新たにする。「核なき世界」を信じてやまない世界中の人々に、大きな「希望」を与えてくれました。

広島の人々のみならず、全ての日本国民が待ち望んだ、この歴史的な訪問を心から歓迎したいと思います。

日米両国の和解、そして信頼と友情の歴史に、新たなページを刻む、オバマ大統領の決断と勇気に対して、心から皆様と共に敬意を表したいと思います。

先ほど、私とオバマ大統領は、先の大戦において、そして原爆投下によって犠牲となった全ての人々に対し、哀悼の誠を捧げました。

71 年前、広島、そして長崎では、たった一発の原子爆弾によって、何の罪もない、たくさんの方々の市井の人々が、そして子供たちが、無残にも犠牲となりました。一人一人に、それぞれの人生があり、夢があり、愛する家族があった。この当然の事実を噛みしめる時、ただただ、断腸の念を禁じ得ません。

今なお、被爆によって、大変な苦痛を受けておられる方々も、いらっしゃいます。

71 年前、正にこの地であって、想像を絶するような悲惨な経験をした方々の「思い」。それは、筆舌に尽くし難いものであります。様々な「思い」が去来したであろう、その胸の中にあって、ただ、このことだけは間違いありません。

世界中のどこであろうとも、

再び、このような悲惨な経験を

決して繰り返させてはならない。

この痛切な「思い」をしっかりと受け継いでいくことが、今を生きる私たちの責任であります。

「核兵器のない世界」を必ず実現する。その道のりが、いかに長く、いかに困難なものであろうとも、絶え間なく、努力を積み重ねていくことが、今を生きる私たちの責任であります。

そして、あの忘れ得ぬ日に生まれた子供たちが、恒久平和を願って点（とも）した、あの「灯（ともしび）」に誓って、世界の平和と繁栄に力を尽くす、それが、今を生きる私たちの責任であります。

必ずや、その責任を果たしていく。日本と米国が、力を合わせて、世界の人々に「希望を生み出す灯」となる。この地に立ち、オバマ大統領と共に、改めて、固く決意しています。

そのことが、広島、長崎で原子爆弾の犠牲となった、数多（あまた）の御霊の思いに応える、唯一の道である。

私は、そう確信しています。